

ふるさとを大切に

天の原 ふりさけ見れば 春日なる
三笠の山に 出でし月かも 阿倍仲麿

[現代訳] 大空をふり仰いではるか遠くを眺めると、今見ている月は、かつてふるさと日本の奈良・春日にある三笠山の上に出ていた月と同じ月なのだなあ。

この歌を教わったのは、私が中学1年の時の担任、社会科の教諭、小林広通先生（野球部とかるた部の顧問、夏は野球、冬はかるたのユニークな先生）からです。この先生との出会いが、私のかるたとの出会いとなりました。

さて、この歌は、作者が遣唐使として唐に渡り、はるか離れた日本のことを思う歌です。しかし、作者は日本に帰ることはありませんでした。

さぞや、生まれ故郷・ふるさとへ帰りたかったことと思います。

一方、私は、東京での生活を終え、現在、幼いころから慣れ親しんだふるさと・山陽小野田市に戻り、生活しています。懐かしい方言を聞いたり、幼なじみとも出会い、また、かるた仲間の方々とも出会い、幸せを感じています。

若い方々は、進学・就職・婚姻等でこれから郷里を離れる経験をされる方もあると思いますが、原点ふるさとはいつまでも心の中に残るもので、これからも大切にしていきたいと思います。

山陽小野田かるた協会 会長 松永 進